

アイスキュロス『縛られたプロメーテウス』
NUDO上演台本版
翻訳・横田宇雄

【上演データ】

於・サブテレニアン（東京・板橋）

日時・二〇一四年十月七―八日

登場人物

俳優1（男性） … 予知（統合失調症）

俳優2（男性） … 火の技術、海、海の娘たち、伝令

俳優3（女性） … 権力と暴力、海の娘たち、イーオー

舞台装置

スキュテイアーの辺境、海に面して高く聳える岩山のふもと。

高級そうな部屋の室内。中央にベッド。その脇にランプ。窓から見えるほのかな明かり。

【翻訳にあたって】

・行単位に訳出しているが、翻訳範囲の中で省いている行・語もある。

・神の名前や地名など固有名詞は（イーオーを除いて）全て削除した。

・対話の順序を入れ替えたり、内容の恣意的な変更については「*」を付けた。

・「†」は日本語訳文の行番号の参照箇所である。また、それぞれに文体を追加した。

・ト書きは全て演出家が追加したものである。

・底本は日本語（伊藤照夫）、英語（Classics Archive所収）、仏語（Alexis Pierron）を参考にした。

・幕（■1〜5）、景（数字）、説明（文体・内容）、翻訳箇所（行数・日本語版）。

英語版：Prometheus bound, version classics Archive:

<http://classics.mit.edu/Aeschylus/prometheus.html>

・文体・語り、対話、描写、体言止め、指呼表現、助詞共有、脚韻、吐露、合唱、名修（動）、被修動

■開演前

薄暗く客電がついている。

ゆっくりと舞台は暗くなっていく。

■
1

両側（両客席側）から俳優が入ってくる。

火の技術† 声もなく、誰の姿も見えない。太陽は暑く、肌が焼ける。

夜が訪れ、夜は日の光を隠してくれる。朝日が昇り、朝日は霜を溶かしてくれる。

苦しんでいる——今ここで——拷問によって。この罰が。解放者はまだ来ない。

罰は知恵から生まれた*。人間を愛する、予知の恵み*。強情で山の神々を恐れない*。

立たされて——岩山に——いる。——眠ることができない、しゃがむことができない。

冷酷なのは天。苦しみも、悲しみも、無駄。新しい支配者は、いつも荒々しい。

クラトス 何を嘆いている。この裏切り者——憎い。

† 21から38行。描写。

あなたの大切な技術——火の技術——を、人間にばらした。

火の技術↓ 忌々しい、自分の技術が。

クラトス この任務は、あなたの技術のせいではないでしょう。

火の技術 ……火の技術が、誰かほかの者に与えられていけば…

…。

クラトス↓ 神はそれぞれ、力をお持ちです。けれど、治めるのは

天のみ。

天のみが自由なのです。

火の技術↓ ああ。

クラトス 早くしてください、天があなたを、見る——ためらっ

ている——前に。

火の技術 (鎖は) もう既に手の中に。

クラトス 鎖を両腕に回す。槌で打つ。力を込める。

火の技術 ああ！ 予知が。痛いんでしょう！

クラトス ためらっている！ 天の敵(かたき)に同情するんで

すか？

罰はいつかあなたにも。

火の技術 ……お前は見ている、辛い風景を。

クラトス 罪人(ざいにん)を、当然の報いを見ているんです。

帯を腹に巻く。

火の技術 分かっている。指図はいい。

クラトス 指図も、非難もしましょう。下がる。輪を脛に回す。

縛り付ける。

火の技術 終わった。すぐに。

クラトス 釘を足へ打ち付ける。

この仕事を見ている人は、口うるさい厳しい人ですからね。

二人は去っていく。

→ 45から58行。 対話。

→ 49から50行。 対話。

→ 51から77行。 指呼。

予知† 光り輝く空。素早い翼の風。河の流れの源。数限りない波。

全てを育む私の母親・大地。全てを見ている太陽。

……見てくれ、私を。神の仕打ち、天罰を。苦しい、苦しみ続ける、千年も、何千年も。

新しい神が私を縛り付ける。苦しみ、今も、これからも、いつまでも。嘆き。

ああ！ 終わらない。

予知、少し落ち着いて、

予知† 未だ来ていないことは、私が知らないことはない。

知らないものなど、決して私に訪れない。運命に逆らえるものなどはない。

必然に勝るものなどはない。

† 私は人間に恵みを与えた——罰を、私は受ける。

† 88から100行。体言止め。

† 101行から105行。脚韻。

火を盗み、大茴香に入れた——全ての技術・道具の源が——私の罰。

岩山に堅く締め付けられ、打ち付けられ、つながれている。

海の娘たちが登場する。

海の娘たち† こわがらないで。私たちみんな、翼を揮って、この

岩山まで来たんです。

高い音——鉄を叩く——洞窟まで響いてきた。父親を説得しなければならなかった。

靴も忘れて——そう、恥ずかしかった——

まともになければと思ひ——この車に乗ってやって来た。

海の娘たち† あの新しい君主——山を支配して。新しい法の——その法の下に、かの大きく恐ろしいものたちは、あの方の目の前から消え去る。

から消え去る。

† 106行から113行。助詞共有。

† 127行から137行。被修動。

† 147行から151行。名修。

→ 152行から168行。描写。

予知↓ 奈落——地の底——死者たちを飲み込む——へ、

いっそのこと投げ込んでくれたら！

神々に笑われ、宙吊りにされ、風に打ちのめされる。敵どもを喜ばせているだけ。

海の娘たち どの神も喜ばない。苦しむあなたを。

……天だけは、怒りに燃え、恐ろしい災いをもたらすでしょう。

宇宙——天の敵、王座を奪う——を屈服させてしまう、恐ろしい力。

■ 2

海の娘たち↑ もし口に出してもいいことなら教えてください。

天があなたにどんな仕打ちを与えるのか。

予知 神々は、怒りに駆られ、お互い同士でいがみ合う。

ある神々は、先代かの実りをその座から追い出そうと考える。

あきれるばかり、天を王座にかつぎあげる。

……ほかの神々は、天の支配に歯向かっている。

私は策を練る。

宇宙と大地の子供たち、大きい人の一族を説得する。しかし、上

手くいかない。

彼らは自惚れ、自らの力を見誤っている。

私の母親——法則・正義——様々な名前で呼ばれているが、姿は

一つ。

——母は私に教えてくれた。腕力や暴力では勝利も統治も行えな

い。

思っていることを隠し、相手を欺く策が必要なのだと*。

→ 193行から223行。語り。

これを大きい人の一族は聞き入れない。最善は、母と一緒に自分から天の側につくこと。

予知の力*によって、古い神々、宇宙と大きい人の一族たちを暗黒の中へと封じ込める……

↑天は山に就くや否や*、他の神々に力を分け与え、役を割り当てる。

天は見向きもしない——人間のことなど。この種族を絶滅させ、新しい種族を作り出す。

……誰も異論を唱えない、私を除いて。だから私は救い出す。

雷に打たれ、奈落に落ちないために。

海の娘たち↑ ほかには？

予知 自分たちの死を予め知ることができないように。

海の娘たち どんな菓を？

予知 盲目の希望。

海の娘たち 役立つものを。ほかには？

予知 火の技術。

↑ 247行から255行。語り。

↑ 247行から255行。対話。

海の娘たち 彼らは今、火を持っている……。

予知 そこからたくさん学ぶだろう。

海の娘たち それで天は……

予知↑ 私は全て予め知っている。自ら進んで過ちを犯している。

人間を助け、報いを受ける。

↑禍（わざわい）が、私に降りかかるとは思っていなかった。

苦しみが、身をやつれさせることになるなんて。

海の娘たちは予知に近寄り、同情する↑。

海の娘たち、去る。

海がやってくる。

海↑ （海が）素早い翼の——轡（くつわ）も付けず——鳥を操

って、やってきた。

↑ 268行から267行。語り。

↑ 268行から270行。吐露。

↑ 271行から276行。

予知、血の——私はあなたに同情、つながりが、している——私を駆り立てる。

予知↑ 天の側——権力を擁護する——に就いた予知者の苦しみを。

海 提案がある。策を——たとえ予知、あなたが策士であったとしても——最善の策を。

新しいやり方——神々を支配する主人こそが新しいのだから——に変えるんだ。

天はいかに高くても、あなたの怒りを聞きつけるだろう。

この苦しみをさえも、遊びに思えるような。忘れるんだ、怒りは。

求めるんだ、救いを。

饒舌——思い上がりの——への罰なんだ。不平を漏らし、謙（へりくだ）ろうとしない。

あなたは、一層の苦しみを求めている。

独裁者は——独りで裁く者——触らぬ神に祟りなし。

→ 284行から290行。名被動。

→ 304行から346行。対話。

救い出せるかもしれない——そのままにいるんだ——私が行ってくる。

予知 ありがたいことだ。

あなたが——二人の思い上がった自由・企てが——罰せられていないなら。

天はいずれ説得されない。ここまで来たことが高くつかないように。

海 自分を説得するよりも、相手を説得する方が上手いらしい。

苦しみがそれを証明している。

天を説得してこよう。恵みが苦しみを解放するように。

予知 ありがとう。忘れることはないだろう。

予知↑ 悲しいんだ、既に今、私の兄の不運。西で天空と地面の間の柱を支えている。

↑ 気の毒なんだ、あの大地の息子、東の洞窟に住む、恐ろしく奇

怪で、百の頭を持ち、

凶暴の、轟音も抑え込まれ。神々に立ち向かう。

→ 347行から350行。語り。

→ 351行から372行。語り。

恐怖を、顎から吐き散らし、光を両目から放ち、

轟音は怪物の力で天を打ち負かそうとする。

眠りを知らぬ矢、火を噴出して落ちる雷。思い上がりをかき消す。

雷は心臓を打ち、死体は今は西の海に横たわっている。

その灼熱の山の頂上で、金属を鍛えるのは、火の技術。

そこから火の川が吹き出て、ふもとの豊かな土地を呑みつくす。

轟音は怒りを吐き出し続ける。天の雷に打たれたとしても。

海† 心の病は言葉によって癒される。

予知 穏やかさは怒りを上から丸め込む。

海 独断と熱意がどういった良いことをもたらすんだ？

予知 余計な骨折りと、軽薄なお人よし。

海 そのお人よしを放っておいてくれないか。知性の真髄は、無

知を装う策略だ*。

予知 それとは私の過ち。

海 ……つまり、帰れと？

予知 私への哀れみが憎しみを買わないように。

→ 377行から380行。対話。

海 全知全能の座につくものの憎しみを？

予知 あれを怒らせないように。

海は去る。

海の娘たち† あなたを嘆く叫びが、いたるところからあがってきます。

あなたとあなたの兄弟たちの偉大な行いを惜しみ嘆いてい

るのです。かのアジアの地に暮らしている人間たちも、

あなたの苦しみに同情して嘆いています。

→ 406行から414行。合唱。

■ 3

予知[†] 辛いんだ、惨めな辱めに遭っている自分の姿を見ていると。

あの神々に恵みを与えたのは、私なのだから。それを言っても何になろう。

[†]人間たち——あの有象無象、愚かな——は悲惨な生涯を送っている。

私は彼らに分別と知性を与える。

お前たち^{*}は、話を聞いても理解しない。

——夢の中を、幻の中を生きているように、長い間、無分別に生きていく。

煉瓦を使い、木を使い、日の当たる家を作ること知らない。

蟻のように、太陽のない洞窟の中に住んでいる。

冬の始まり、春の香る草花、夏の豊穡の印を持たず、何も考えずに生きていく。

星がいつ沈み、昇るのかを教えてやろう。

→ 436行から442行。吐露。

→ 442行から468行。語り。

最も優れた学——数（かず）の学——を作ってやろう。

字を組み合わせることを教えてやろう。全てを覚え留める詩（うた）の母、記憶の役割を。

[†]病にかかるとお前たち^{*}人間は知らない——何を食べるべきか、何を塗るべきか、

何を呑むべきか。薬を組み合わせることを教えよう。

偶然——道端での、鳥の飛び交う姿の——を読み解く術を教えてやろう。

しきたり——様々な種の中から——不吉な関係、親しい関係、

その並び方——を与えてやろう。

内蔵の肉——色、艶、胆嚢、胆汁、神々に喜ばれる——がどのようなものか教えてやろう。

火が示す徴——かつては見えなかった——を見えるようにしてやろう。

これが全てである。

→ 478行から506行。語り。

地から人間たちの宝——青銅、鉄、銀、金——を与えるのは私ではなく誰であろう。

人間の持つ全ての技術は、予知が与えるものである。

海の娘たち（男性） もう辞めてください。多く、人間に与えすぎました。

自由になれば、天と対等になれるとでも。

予知 † 決められた、この未来さえも、運命を避けることは出来ない。

必然と比べれば、技術は脆い。

海の娘たち（男性） 誰ですか、その必然をもたらすのは。

予知 現在、過去、未来——それは運命。揺らぐことのない復讐。

海の娘たち（男性） 天よりも強いのですか？

予知 定められた運命には、天も逆らうことができない。

海の娘たち、歌。

→ 511行から520行。対話。

海の娘たち（男性） † 人間は、あなたの助けを知らないのですよ。うか。

人間、盲目的な種族、夢の中のような無気力さ。
天の秩序を、人間が越えられるはずがない。

→ 549行から551行。対話。

■ 4

イーオー↑ 教えてください。私の放浪、不幸の時代の終わる時を。

予知 知らないことが、知ることよりも*。

イーオー — 隠さないで* —

予知 — お前のためだ* —

イーオー — 私を苦しめることを*。

予知 — 聞き入れよう* —

イーオー — ではなぜ、躊躇うの*? —

予知 — 躊躇って* —

イーオー — 全て* —

予知 — いない*。不安にさせたく* —

イーオー — 同情は* —

予知 — ない* —

イーオー — いいんです*。私が望んでいる。

予知 望むなら、話してみよう。

イーオー↑ 下手な優しさは、私にとって辛いだけ*。

↑ 622行から630行。助詞共有。

予知↑ いいか。天の夫人がお前に与える災難を。

(イーオーは) 初め、日の昇る方へ、未開の荒野に行く。

遊牧民 — 見事な車輪の車、枝で編んだ背の高い小屋、

遠くまで届く弓を持つ者たち — へ至る。

蛮族* — 左手で鉄を鍛える — へ至る。

彼らは野蛮でよそのものには近づくことができない。

その名前の通りの偉大と呼ばれる河に至る。

渡ってはならない。簡単に渡ることは出来ない。

地上で最も高い山へ至る。

天井の星に届く、その峰を越えて、南へと向かう。

女だけの騎馬民族に出会う。道案内を喜んで務めよう。

湖の狭い出口にたどり着けば一つ目*の海峡だ。

勇気を出し、二つ目*の海峡を渡れ。

そこは現地の人間たち*の間でいつまでも語り継がれることになる。

ヨーロッパの地を去り、アジアの大陸へと至る。

↑ 683行から686行。対話。

↑ 702行から741行。語り。

予知† 神々の定め・暴力。天はお前と交わるために、この放浪を強制する。

ひどい結婚相手と出会ったのだ。苦しみは、まだ始まってさえもない。

イーオー 生きていたって、何にもならない。あの崖から早く身を投げるべきだった。

苦しみから、死んで解放されれば、耐えなくて——来る日も来る日もやってくる苦痛——も済む。

予知 死ねば苦しみから逃れられる。……私は死ぬことも許されていない。

苦しみの終わりは決められていない。天が山を降りるまで*。

イーオー 天の支配はいつか終わると？

予知 お前にとって喜ばしいのだ、そうなれば。

イーオー 天は私を遭わせています、ひどい目に。

予知 革命は成就する。

イーオー それを誰が？

† 752行から774行。対話。

予知 自分自身。自らの情欲によって。

イーオー どのように？

予知 悔い改められるべき結婚によって。

イーオー 神との？ 人間との？

予知 天の結婚相手。口には出してはならない。

イーオー その相手が王座を転覆させることに？

予知 それが一人の子——父よりも強い——を世に授ける。

イーオー その運命には逆らえない？

予知 天が私を解かない限り。

イーオー 誰があなたを——天に逆らって——救うのですか？

予知 お前の子孫が。

イーオー 私の子供が？ あなたの解放者に？

予知 十の世代を経て、その三代目の子。

イーオー† ああ、ああ、発作が心を締め付ける！

蛇の針——焔で焼き付けられた——が私を刺す。

心臓は、恐ろしさに高鳴り、胸を蹴り上げ、眼が回る。

† 877行から886行。吐露。

→ 901行から903行。吐露。

狂気は嵐のように、航路をはずれて、舌も回らず、頭を惑わせ、

打ち付ける波に砕け散っていく。

↑結婚がお互いにとって望まなければ、何も恐いことはない。ただ、不安でなりません。

力のある、立場の強い神々の情欲の眼差しから逃れられないのではないかと。

■ 5

伝令↑ お前——人間どもに恵みを与え、火を盗んだ——に話がある。

結婚——王座を転覆させる——を話すんだ。謎めいた言い方ではなく。

天には脅しも役立たず。

予知 横柄で自己満足なお言葉で。その口は山の神々の召使にふさわしい。

興って間もない集団は、もう安定した座に身を構えている。

お前たちは三代目。すぐに転落するだろう。

↑全て敵なのだ。私の恵みを受けながら、私に罰を与えるものは。伝令 なるほど、心の病は重症だ。

予知 病か。敵を憎むことが病なら。

伝令 病でなければ、どんなに鼻につくことだろう。

予知 ああ！

伝令 天はそのような言葉を知っておられない。

→ 947行から959行。名修動。

→ 975行から981行。対話。

予知 時間は動く。時間は偉大な支配者だ。

↑ 投げつけよ、私の頭上に、二又の——焰を吹き出す——

稲妻を。

吹き荒れる、雷鳴轟き、荒れ狂う嵐よ。

高鳴れ、大地を根っこから揺るがせろ。

かき乱せ、嵐の中で、大海（たいかい）の波と天体のきら

めきを。

天よ、私を奈落へ突き落とせ。何をされても、私の命は奪

えない。

伝令 これこそ、精神錯乱だ。このパニック、言葉遣い。完全に

狂っている！

逆境がそうさせるのか？ 怒りは静まる気配がない！

こいつの苦しみに同情しているようだが、早く出て行け、雷で気

を失う前にな！

二人は出て行く。舞台上には予知のみ。

→ 1036行から1062行。独白。

轟音が鳴り響く。

予知↑ さあ！ 脅しが本物になった！ 大地は揺れている。

雷は地中から轟（とどろ）いている。稲妻は焰を出して輝やいて
いる。竜巻は塵を巻き上げている。

風は互いにぶつかりあっている。騒音同士はぶつかって、競い合
っている。

空と海は溶け込んで一つになる。嵐は天から訪れて、私を恐怖に
陥らせる。偉大な母よ！

世界を光で照らす天空よ！ 見たか、私が不当な拷問を受けてい
るのを！

予知は奈落へ落ちていく。

幕

→ 1080行から1093行。独白。

当テキストは著作者の許可によって
クリエイティブコモンズの利用許諾が承認されています。
「表示―継承」